

# I. 第1章 知的財産に関する創造力・実践力・活用力開発事業の概要

## 第1節 当事業の目的及び本報告書について

### 1-1-1. 目的

知的財産を豊富に創造し、これを保護・活用することにより、わが国の経済と文化の持続的な発展を目指す「知的財産立国」の実現には、質の高い知的財産を生み出す仕組みを整え、知的財産を適切に保護し、社会全体で活用する環境整備が重要である。特に、知的創造サイクルを支える人材の育成・確保は急務であり、学校教育を通じた幼少期からの知的財産マインドの涵養、大学等の高等教育機関における知的財産に明るい人材の育成、中小・ベンチャー企業での知的財産制度に対する理解と関心の増進など、国民全体への知的財産制度に対する意識の醸成と知識の向上を図るための環境整備が重要である。

さらに、国民の知的財産意識を向上させるためには、学校教育機関において知財マインドをもった人材の育成を推進することが重要であるが、「知的財産推進計画」との関連で述べれば、これまで「知的財産推進計画第1期(2003～2005年度)、第2期(2006～2008年度)」の基本方針としては、主に権利保護に注力された。その中で、第2期の最終年にあたる平成20(2008)年度計画では、知的財産推進計画2008の第5章4.「国民の知的財産意識を向上させる」において、(1)「学校における知的財産教育を推進すること」、(2)「地域における知的財産教育を推進すること」、(3)知的財産の創造、保護、活用の体験教育を充実することが述べられ、同じく、第5章5.(6)「専門高校における知的財産教育を推進する」においては、「工業高校や農業高校などにおける知財教育に関するこれまでの取組事例を活用するとともに、そのような取組の普及と定着を促すため、地域との連携や学校間の連携を取り入れた教育実践プログラムの開発を支援し、専門高校における知財教育を推進する」ことが述べられ、それぞれ活発に推進されてきた。

平成21(2009)年度からの「知的財産推進計画第3期」の基本方針は、知的財産をいかに経済的価値の創出に結びつけるかを重視することとされ、知財教育を推進する中で知財マインドをもった人材を育成することに関しては、第3期初年度の知的財産推進計画2009のⅡ-1-(3)-②において、『地域における知的財産教育を推進する』(P.7)ことが謳われている。

(<http://www.kantei.go.jp/jp/singi/titeki2/090624/2009keikaku.pdf> 参照)

また、平成22(2010)年の知的財産推進計画2010では、今後の我が国の産業の国際競争力強化のための中核に位置づけ、新成長戦略と連動し、科学技術政策、情報通信技術政策と一体化してスピード感を持って推進することとして、知財人材育成においても「専門学校や大学と産業界等との連携による、コンテンツ分野等の人材育成に関する枠組みモデルの構築」「専門学校や大学と産業界等との連携によるプログラム開発の拡大」「質の高い教育プログラムによるコンテンツ分野等の高度・中堅人材の重点的な養成及び専門学校や大学と産業界等との連携による教育プログラムの改善・更新」などが改善目標として掲げられている。

平成23(2011)年の知的財産推進計画2011においては、東日本大震災への対応を含め、①国際標準化のステージアップ戦略、②知財イノベーション競争戦略、③最先端デジタル・ネットワーク戦略、④クールジャパン戦略の4つを重点戦略として強力に推進するものとして、「知的財産戦略を支える人材の育成・確保」も挙げられている。

平成24(2012)年の知的財産推進計画2012においては、情勢変化と知的財産戦略の新たな挑戦、

国際競争力強化に資する2つの知的財産総合戦略が打ち出され、その中でも情勢変化と知的財産戦略の新たな挑戦の中の3. 新時代に立ち向かう知的財産戦略の新たな挑戦においては、知財イノベーションのための総合戦略を協力を推進する。とし、更に最先端の知財マネジメント人材を養成する場の形成や知財マネジメント戦略研究拠点の整備を含め、新たな時代に対応する知財人材を加速的に育成・確保する「知財人材育成プラン」を強力に実行する。とされている。

一方で、国際競争力強化に資する2つの知的財産総合戦略の中では、1. ③次世代の知財人材を育成し確保する。として、国内の知的財産権の取得・維持・管理に直接的に関わる「知財専門人材」の育成と併せて、イノベーション戦略に基づきグローバルにイノベーションを創出し、国際競争力の強化に資するような形で、事業戦略に巧みに適切かつ先行的・実践的に知財を活用できる「知財活用人材（知財マネジメント人材）」にまで、知財人材の育成の重点を広げなければならないとしている。

平成25（2013）年の知的財産推進計画2013では、3. グローバル知財人材の育成・確保が上げられており、更に平成26（2014）年の知的財産推進計画2014では、6. 政府が中心となった人材育成の場の整備として、政府が主導的な役割を果たして知財人材の育成を行う場の整備を早急かつ着実に進めていくべきであるとしている。

平成27（2015）年の知的財産推進計画2015では、8. 知財人材の戦略的な育成・活用のなかで、知財教育の推進について記載されている。

平成28（2016）年の知的財産推進計画2016では、前年度に取り上げられた知財教育の推進から進展し、「知財教育タスクフォース」を設置して、社会と協働した知財教育の推進の在り方について議論を行い、今後、我が国が知財教育を推進していくに当たっての求められる方向性が3点整理された。

- ① “国民一人ひとりが知財人材”を目指した発達の段階に応じた系統的な教育の実施
- ② 社会との関わりや知識の活用を視野に入れた創造性の発展のための仕掛け
- ③ 地域・社会との協働（産学官連携による支援体制構築）の実現

平成29（2017）年の知的財産推進計画2017では、II. 知財の潜在力を活用した地方創生とイノベーション推進 3. 「国民一人ひとりが知財人材」を目指した知財教育・知財人材育成の推進の項目が掲げられ、その項目における現状と課題として「発達段階に応じて、新たな発見や思考の源泉となる創造性を育むとともに、知的財産の保護・活用の重要性に対する理解の増進と態度形成を図り、もって知的財産の創造に始まり、保護・活用に至る知的創造サイクルの好循環を生み出すための人材を育む教育（知財創造教育）の全国的な普及を推進することが求められている。」

平成30（2018）年の知的財産推進計画では、2. 「知的財産推進計画2018」重点事項（1）これからの時代に対応した人材・ビジネスを育てる 「④ 知財創造教育・知財人材育成の推進」において、「イノベーションの創出のためには、新しいものを創造する人材や、創造されたものを活用したり他の様々なものと組み合わせたりして、新しい価値を生み出す仕組みをデザインできる人材が必要である。」「今後は、知財創造教育を一層教育現場に浸透させるための取組を行うとともに、高等学校における知財創造教育の体系化や、現場の教職員が知財創造教育を実践できるようにするための支援方策について検討することが求められる。」とされている。

その他教育現場においては、高等学校における新学習指導要領が平成30（2018）年3月に公示され、

同要領において、「豊かな創造性を備え持続可能な社会の創り手となることが期待される子供たちが急速に変化し予測不可能な社会において自立的に生き、社会の形成に参画するための資質・能力を一層確実に育成する」ことが基本的な考え方の一つとされている。「高等学校においては、社会で求められる資質・能力を全ての生徒に育み、生涯にわたって探求を深める未来の創り手として送り出していくことがこれまで以上に求められる」として、「①知識及び技能、②思考力、判断力、表現力等、③学びに向かう力、人間性等」の「資質・能力の三つの柱が、偏りなく実現されるよう、・・・授業改善を図ること」とされ、例えば、理数教育においては、「将来、学術研究を通じた知の創出をもたらすことができる創造性豊かな人材の育成を目指し、新たな探求的科目として、「理数探究基礎」及び「理数探究」」が新設された。この新高等学校学習指導要領は平成34（2022）年4月1日以降の「第1学年に入学した生徒（略）に係る教育課程及び全課程の修了の認定から適用」されることとなっており、今後、高等学校における知的財産教育を通じた知財マインドをもった人材の育成の取組みは、一層促進されると考えられる。

このような流れに先立ち、「知的財産に関する創造力・実践力・活用力開発事業（以下、「本事業」という。）の前身の事業は、平成12（2000）年度に「産業財産権標準テキストの有効活用に関する実験協力校事業」として開始された。平成12年度には工業高等学校を対象に事業が実施され、その後、高等専門学校（平成13（2001）年度から実施）、商業高等学校（平成14（2002）年度から実施）、農業高等学校（平成15（2003）年度から実施）においても順次実施された。その後、平成20（2008）年度より全国の高等学校（専門学科）及び高等専門学校における知財マインドを持った人材の育成の一層の充実を図るため、これまでの事業名称を「産業財産権標準テキストを活用した知的財産教育推進協力校事業」として実施してきた。

この平成12（2000）年度から平成22（2010）年度にかけて実施された「産業財産権標準テキスト」の活用を軸とする事業は、事業実施期間中に多くの成果・実践例を生み出し、我が国における高等学校（専門学科）及び高等専門学校における知財人材の育成（知財教育）の発展に大きな役割を果たしてきた。

そして、平成23（2011）年度からは、産業界からの人材育成に関する要望や、政府の人材育成政策に応えるため、近い将来企業等で活躍することが見込まれる「明日の産業人材」を育成する「知的財産に関する創造力・実践力・活用力開発事業」を新たに展開している。

本事業においては、知的財産権制度に関する理解を深めていく過程において生徒・学生が創作した発明・意匠・商標についてのアイデアを地域の専門家（弁理士等）とのコンサルテーションや地元企業等との連携等により知的財産としていく過程を模擬的な出願書類の作成、試作品の作成、地元企業等との連携を通じた商品の開発等、知的財産権の取得に向けて必要となる活動の体験などの実践の場を通じて知的創造力や実践力・活用力を育む取組を行うことを支援している。

平成26年度より、知的財産に関する創造力・実践力・活用力に関する実践的な能力を養成する取組の導入と基本的な知識の習得を目指す取組の計画を策定し、その実践を通じて組織的な取組として定着を図っていくことを目的とした「導入・定着型」と、知的財産に関する創造力・実践力・開発力開発事業において知的財産学習の組織的な推進体制ができ、既に知的財産学習が定着し、新たな特徴ある取組にチャレンジする学校を最大3年間支援することを目的とした「展開型」の2種類のタイプによる募集を行い、平成27年度以降引き続き募集を行った。

令和元年度応募校の採択については、外部有識者等からなる「知的財産に関する創造力・実践力・活用力開発

事業 推進委員会」において申請書に記載された取組やその取組を実施するに当たってのロードマップなどを確認しつつ審査を行い、「導入・定着型」として30校、「展開型」として4校（工業：4校）が採択された。また、「展開型」採択校においては、知的財産学習に関して1種類以上の教材等を新たに開発する取組を必須としている。

また、平成29・30・令和元年度に「展開型」として採択を受けた12校（3校、5校、4校）については、「知的財産に関する創造力・実践力・活用力開発事業 推進委員会」へ知的財産学習の取組内容及び計画の進捗状況を報告し、委員会から取組内容において優れていると点と次年度の取組を行うに当たっての留意点等の御意見をいただいた。委員会からの意見を取り入れつつ、平成30・令和元年度の「展開型」採択校9校のうち、継続を希望する8校については、取組を継続していくこととなった。

### 1-1-2 . 本報告書の内容

知財マインドを持った人材の育成とその取組の普及や定着を図るために、参加校における生徒又は学生が知的財産に関する知識の習得や創造力及び実践力・活用力を育む過程について分析するとともに、取組を通しての地域や関係機関からの支援や連携の状況の具体的な事例を収集してとりまとめを行ったものである。

各学校の実践活動は、1年間にわたる取組であり、この報告書は、参加校からの年間指導報告書や教員に対するアンケート結果等を元に作成している。

### 1-1-3 . 参加学校数の推移

本事業と、前身の「産業財産権標準テキストの有効活用に関する実験協力校事業」（H19年度以前）及び「産業財産権標準テキストを活用した知的財産教育推進協力校事業」（H20～22年度）も含めた参加校数（延べ数）は、下記の表およびグラフのとおりである。

表1-1-1 参加校数の推移（平成23年度以前は前身の事業）

実施年度	H17 以前	H18 2006	H19 2007	H20 2008	H21 2009	H22 2010	H23 2011	H24 2012	H25 2013	H26 2014	H27 2015	H28 2016	H29 2017	H30 2018	R1 2019	合計 (延べ数)
工業高等学校	295	44	39	23	25	34	39	48	53	48	48	39	36	25	22	818
商業高等学校	68	31	23	10	10	13	11	21	28	19	24	20	21	12	10	321
農業高等学校	46	18	13	9	6	12	10	13	13	10	15	15	9	3	1	193
水産高等学校	---	---	---	---	---	2	3	5	5	7	7	5	8	5	5	52
高等学校 合計	409	93	75	42	41	61	63	87	99	84	94	79	74	45	38	1,384
高等専門 学校	65	13	15	17	15	19	14	13	14	16	9	10	8	7	4	239
全合計	474	106	90	59	56	80	77	100	113	100	103	89	82	52	42	1,623

今年度の本事業参加校の分布を以下に示す。

図 1-1-1 参加校の分布

令和元年度 知的財産に関する創造力・実践力・活用力開発事業 参加校

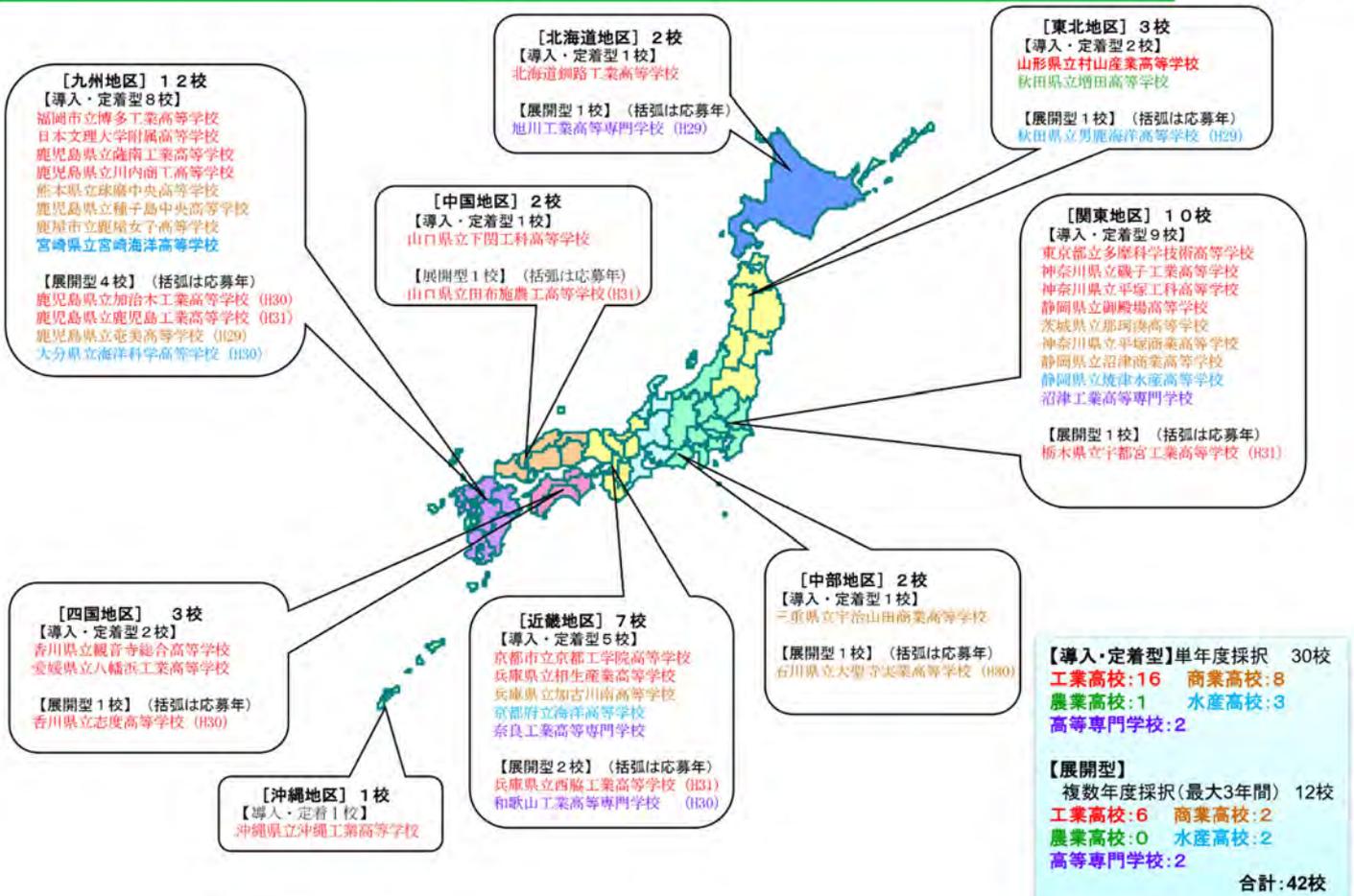
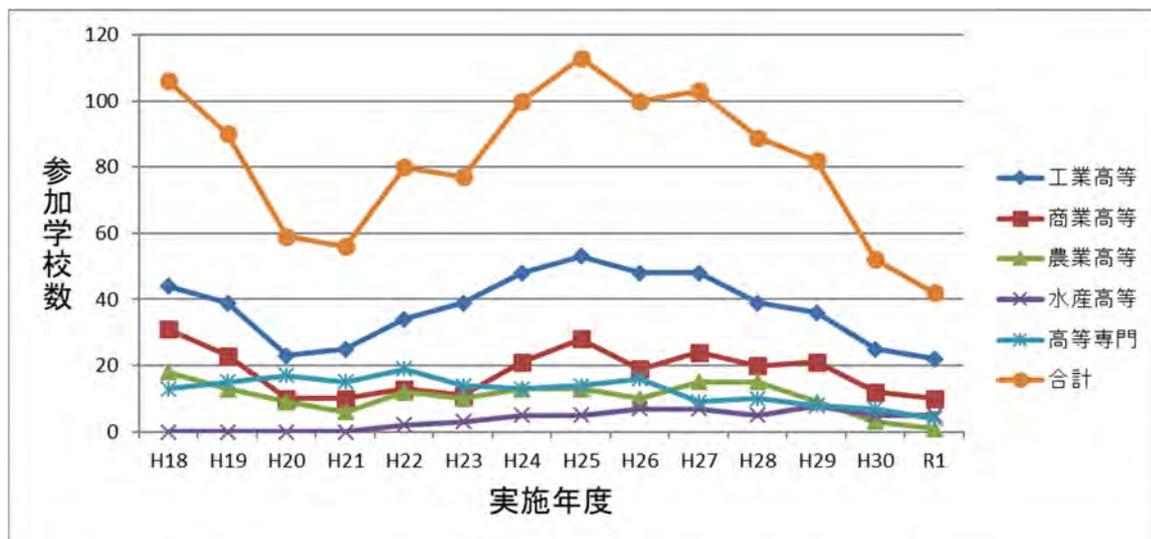


図 1-1-2 校種別参加校数



## 第2節 令和元年度参加校の活動概要

参加校（42校）の取組内容は以下のとおり。

- (1) 予め「年間指導計画書」および「学期指導計画書」を策定し、同計画に基づき、下記項目（2）のような活動を行った。
- (2) 知財マインドを持ち、創造力・実践力・活用力の育成に重点を置いた取組の内容は、各参加校においてそれぞれ策定したが、指導内容の例として次の項目が挙げられる。
  - a) 産業財産権標準テキストを用いた指導活動
  - b) 課題解決の体験（創作活動・課題研究・商品開発）
  - c) 外部講師を招聘して知的財産に関する講演会・セミナーを開催
  - d) 研究活動による創作内容に関する知的財産情報の活用、権利化への試み等、知的財産権手続に関するプロセスの体験
  - e) 知的財産の尊重の学習
  - f) 各地域において、地元企業・諸団体・他校と連携して、取組の支援を受け、また、知的財産を普及・活用する活動
- (3) 参加校相互の連絡・情報交換の場として、さらには成果発表の場として、地域別交流・研究協議会、取組成果展示・発表会および年次報告会を行った。

### 1-2-1 . 年間活動概要

令和元年度の活動の概要は以下のとおりである。

表1-2-1 令和元年度の活動の概要

事業活動		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1	事業説明会開催	●											
2	指導計画書（年間・学期）の提出		●										
3	支出計画書（年間）の提出		●										
4	地域別交流・研究協議会開催 （全国3箇所で開催）				●	●							
5	（次年度参加校の公募）							●	●				
6	取組成果発表								●				
7	年間指導報告書・報告書要約書提出									●	●		
8	年次報告会開催・アンケート提出										●	●	
9	活動終了												●

## 1-2-2. 事業説明会

知的財産に関する創造力・実践力・活用力開発事業の開始に当たり、参加校全 42 校を対象とし、本事業に関する説明会を開催した。

事業説明会(進行1)では、学校長及び担当教員に対する独立行政法人工業所有権情報・研修館 理事長 久保浩三の開会挨拶、文部科学省国立教育政策研究所教育課程研究センター教育課程調査官 持田雄一様、特許庁総務部企画調査課 知的財産活用企画調整官 柴田昌弘様の挨拶が行われた。

その後、独立行政法人工業所有権情報・研修館理事長 久保浩三による採択決定書授与が行われた。引き続き、独立行政法人工業所有権情報・研修館 人材開発統括監 榎本吉孝による講演「『知財を学ぶ』とは」がなされた。

独立行政法人工業所有権情報・研修館 知財人材部長 高橋真之による本事業の説明が行われたのち、続けて、独立行政法人工業所有権情報・研修館 知財人材部 主査 坂本千鶴子による事業に関する事務手続・経費処理等についての説明、ならびに本事業にご協力いただくアドバイザーの紹介が行われた。

休憩を挟み、合同会社つちかい 最高経営責任者(CEO)兼 山口大学 大学研究推進機構 知的財産センター 特命准教授 陳内秀樹様による特別講演「近年の知的財産学習事例と展望～知的学習のニーズとポイント～」、アドバイザー 秋田県立男鹿海洋高等学校 教諭 大高英俊様による模擬授業「課題研究&総合的な探求の時間 探求と知財の関係」が行われた。

休憩をはさみ、分科会(進行2)では、「学校長」、「導入・定着型新規・2年目」、「導入・定着型3年目・4年目」「展開型」に分かれ、アドバイザーによるそれぞれの段階での具体的な取組の進め方の説明が行われた。

休憩を挟み、進行3では、統括アドバイザーの鹿児島県立鹿児島工業高等学校 校長 満丸浩様より事業説明会のまとめの話がなされ、最後に、独立行政法人工業所有権情報・研修館 人材開発統括監 榎本吉孝より閉会挨拶がなされた。

### イ. 日時/場所/参加校内訳

日時：平成31(2019)年4月22日(月)

場所：ラーニングスクエア新橋

(105-0004 東京都港区新橋4丁目21-3 新橋東急ビル)

参加校数：42校(参加校 全校を対象とする)

【参加校】（42校）

展開型採択校（12校）

鹿児島県立奄美高等学校

旭川工業高等専門学校

鹿児島県立 加治木工業高等学校

大分県立海洋科学高等学校

栃木県立宇都宮工業高等学校

山口県立田布施農工高等学校

秋田県立男鹿海洋高等学校

香川県立志度高等学校

石川県立大聖寺実業高等学校

和歌山工業高等専門学校

兵庫県立西脇工業高等学校

鹿児島県立鹿児島工業高等学校

導入・定着型採択校（30校）

I. 工業（16校）

北海道釧路工業高等学校

東京都立多摩科学技術高等学校

神奈川県立平塚工科高等学校

京都市立京都工学院高等学校

山口県立下関工科高等学校

愛媛県立八幡浜工業高等学校

日本文理大学附属高等学校

鹿児島県立川内商工高等学校

山形県立村山産業高等学校

神奈川県立磯子工業高等学校 全日制

静岡県立御殿場高等学校

兵庫県立相生産業高等学校

香川県立観音寺総合高等学校

福岡市立博多工業高等学校

鹿児島県立薩南工業高等学校

沖縄県立沖縄工業高等学校

II. 商業（8校）

茨城県立那珂湊高等学校

静岡県立沼津商業高等学校

兵庫県立加古川南高等学校

鹿児島県立種子島中央高等学校

神奈川県立平塚商業高等学校

三重県立宇治山田商業高等学校

熊本県立球磨中央高等学校

鹿屋市立鹿屋女子高等学校

III. 農業（1校）

秋田県立増田高等学校

IV. 水産（3校）

静岡県立焼津水産高等学校

宮城県立宮崎海洋高等学校

京都府立海洋高等学校

V. 高専（2校）

沼津工業高等専門学校

奈良工業高等専門学校

平成31年度 知的財産に関する創造力・実践力・活用力開発事業  
事業説明会 次第

1. 日 時：平成31年4月22日（月） 12:00～16:40

2. 会 場：ラーニングスクエア新橋  
〒105-0004 東京都港区新橋4丁目21-3 新橋東急ビル  
(TEL 0120-975-379)

3. 進 行

**進行1\_\_全体会** 6階会議室6-A 12:00 ~ 14:35 (155分)

- 1) 開会挨拶 12:00 (5分)  
(独) 工業所有権情報・研修館 理事長 久保 浩三
- 2) 来賓ご挨拶 12:05 (10分)  
文部科学省 国立教育政策研究所 教育課程研究センター  
教育課程調査官 持田 雄一 様  
特許庁 総務部企画調査課 知的財産活用企画調整官 柴田 昌弘 様
- 3) 採択決定書授与 12:15 (5分)  
(代表：新規の導入・定着型採択校、展開型採択校 各1校)  
(独) 工業所有権情報・研修館 理事長 久保 浩三
- 4) 知的財産に関する創造力・実践力・活用力開発事業 趣旨説明 12:20 (10分)  
(独) 工業所有権情報・研修館 人材開発統括監 榎本 吉孝
- 5) 知的財産に関する創造力・実践力・活用力開発事業 事業説明 12:30 (25分)  
(独) 工業所有権情報・研修館 知財人材部長 高橋 真之
- 6) 事務手続・経費処理等に関する説明 14:55 (15分)  
(独) 工業所有権情報・研修館 知財人材部 主査 坂本 千鶴子
- 7) 本事業にご協力いただくアドバイザーの紹介 13:10 (10分)  
  
休憩時間 13:20～13:25 (休憩5分)
- 8) 特別講演 (題目未定) 13:25 (40分)  
合同会社つちかい 最高経営責任者 (CEO) 兼  
山口大学 大学研究推進機構 知的財産センター 特命准教授  
陳内 秀樹 様

9) 模擬授業

14:05 (30分)

アドバイザー 秋田県立男鹿海洋高等学校 教諭 大高 英俊 様

休憩時間 14:35～14:55 (休憩 20分)

この時間に部屋のご移動をお願い申し上げます。

**進行2\_\_分科会**

グループ別討議

14:55 ～ 16:05 (70分)

① 導入・定着型(新規・2年目)校 グループ 【4階会議室4-F】

アドバイザー 秋田県立男鹿海洋高等学校 教諭 大高 英俊 様

アドバイザー 沖縄県立沖縄工業高等学校 教諭 知念 豊孝 様

② 導入・定着型(3年目・4年目)校 グループ 【6階会議室6-A】

アドバイザー 兵庫県立西脇工業高等学校 教諭 吉田 道広 様

アドバイザー 大分県立海洋科学高等学校 教諭 中村晋太郎 様

アドバイザー 石川県立大聖寺実業高等学校 教諭 東 義政 様

③ 展開型校 グループ 【5階会議室5-C】

アドバイザー 沼津工業高等専門学校 教授 大津 孝佳 様

④ 学校長 グループ 【6階会議室6-D】

統括アドバイザー 鹿児島県立鹿児島工業高等学校 校長 満丸 浩 様

休憩時間 16:05～16:25 (休憩 20分)

この時間に部屋のご移動をお願い申し上げます。

**進行3\_\_まとめ**

6階会議室6-A

16:25 ～ 16:40 (15分)

統括アドバイザーからのコメント

16:25 (10分)

統括アドバイザー 鹿児島県立鹿児島工業高等学校 校長 満丸 浩 様

閉会挨拶

16:35 (5分)

(独) 工業所有権情報・研修館 人材育成統括監 榎本 吉孝

以上

【実施風景】

[進行1：全体会]

1) 開会挨拶

(独)工業所有権情報・研修館 理事長 久保 浩三



2) 来賓ご挨拶

文部科学省 国立教育政策研究所 教育課程研究センター

教育課程調査官 持田 雄一 様





3) 採択決定書授与  
(独)工業所有権情報・研修館 理事長 久保 浩三



4) 講演「『知財を学ぶ』とは」

(独)工業所有権情報・研修館 人材開発統括監 榎本 吉孝



5) 知的財産に関する創造力・実践力・活用力開発事業 事業説明

(独)工業所有権情報・研修館 知財人材部長 高橋 真之



6) 事務手続・経費処理等に関する説明

(独)工業所有権情報・研修館 知財人材部 主査 坂本 千鶴子



7) 本事業にご協力いただくアドバイザーの紹介



8) 特別講演「近年の知的財産学習事例と展望～知財学習のニーズとポイント～」  
合同会社つちかい 最高経営責任者（CEO）兼  
山口大学 大学研究推進機構 知的財産センター 特命准教授 陳内 秀樹 様



9) 模擬授業「課題研究&総合的な探求の時間 探求と知財の関係」  
アドバイザー 秋田県立男鹿海洋高等学校 教諭 大高 英俊 様



[進行2\_分科会] グループ別討議

① 学校長グループ

統括アドバイザー 鹿児島県立鹿児島工業高等学校 校長 満丸 浩 様



② 導入・定着型（新規・2年目）校 グループ

アドバイザー 秋田県立男鹿海洋高等学校

教諭 大高 英俊 様

アドバイザー 沖縄県立沖縄工業高等学校

教諭 知念 豊孝 様



③導入・定着型（3年目・4年目）校 グループ

アドバイザー 兵庫県立西脇工業高等学校  
アドバイザー 大分県立海洋科学高等学校  
アドバイザー 石川県立大聖寺実業高等学校

教諭 吉田 道広 様  
教諭 中村 晋太郎 様  
教諭 東 義政 様



④展開型校 グループ

アドバイザー 沼津工業高等専門学校 教授 大津 孝佳 様



[進行3\_まとめ]

統括アドバイザーからのコメント

統括アドバイザー 鹿児島県立鹿児島工業高等学校 校長 満丸 浩 様



閉会挨拶

(独)工業所有権情報・研修館 人材開発統括監 榎本 吉孝



### 1-2-3. 地域別交流・研究協議会事前調整会議

#### 1. 実施概要

事前調整会議の実施概要を下記に記す。

ア. 概要：地域別交流・研究協議会の実施内容等について、助言方法等の研究協議、その他

イ. 日時／場所

日時：令和元年 5月26日（日） 9：00～12：00

場所：（独）工業所有権情報・研修館 8階会議室

東京都港区虎ノ門4-3-1 城山トラストタワー

【参加者】

#### ◆アドバイザー（敬称略）

	氏名	所属・役職
1	満丸 浩	鹿児島県立鹿児島工業高等学校 校長
2	吉田 道広	兵庫県立西脇工業高等学校 教諭
3	知念 豊孝	沖縄県立沖縄工業高等学校 教諭
4	東 義政	石川県立大聖寺実業高等学校 教諭
5	中村 晋太郎	大分県立海洋科学高等学校 教諭
6	大高 英俊	秋田県立男鹿海洋高等学校 教諭
7	大津 孝佳	独立行政法人国立高等専門学校機構沼津工業高等専門学校 教授

以上7名

#### ◆特許庁（敬称略）

	氏名	所属・役職
1	柴田 昌弘	総務部 企画調査課 知的財産活用企画調整官

以上1名

#### ◆独立行政法人工業所有権情報・研修館（敬称略）

	氏名	所属・役職
1	榎本 吉孝	人材開発統括監
2	高橋 真之	知財人材部長
3	青嶋 恭一	知財人材部 部長代理（人材育成環境整備担当）
4	坂本 千鶴子	知財人材部 主査（人材育成環境整備担当）

以上4名

#### ◆請負事業者〔株式会社日本旅行〕（敬称略）

	氏名	所属・役職
1	安斉 敏明	国際旅行事業本部 ECP営業部 課長

以上1名

令和元年度 知的財産に関する創造力・実践力・活用力開発事業  
地域別交流・研究協議会 事前調整会議

次 第

1. 日 時：令和元年5月26日（日） 09:00 ～ 12:00
2. 場 所：（独）工業所有権情報・研修館 8階会議室（城山トラストタワー8F）
3. 議 事
  - (1) 開会挨拶 9:00～09:05（5分）  
（独）工業所有権情報・研修館 人材開発統括監 榎本 吉孝
  - (2) 地域別交流・研究協議会についての内容及び進め方について 9:05～10:35（90分）  
（当日の役割分担と進め方についても確認）  
  
～ 休 憩（10分） ～ (10分)
  - (3) 取組成果・展示発表会について 10:45～11:25（40分）
  - (4) これまでの開発事業全体を踏まえた意見交換 11:25～11:45（20分）  
・ 今後予定の会合に係る開催時期について（御相談）
  - (5) その他 11:45～11:50（5分）
  - (6) 閉会挨拶 11:50～12:00（10分）  
（独）工業所有権情報・研修館 知財人材部長 高橋 真之

## 1-2-4. 地域別交流・研究協議会

地域ごとに教員の皆様方による日頃の知財学習指導等についての研究・協議を行うと共に、各参加校の生徒・学生の皆様にも可能な限り御出席いただき、各学校の知財学習の状況の発表やJ-PlatPat検索とグループ内討議等を通して、教員及び生徒・学生それぞれが地域間で交流を図り、それにより校種を越えた学校間連携により従来の知財学習を更に拡大していくことを狙いとして、全国3箇所において開催した。

その開催場所・日程は次のとおりである。

日時／場所

### 【中部・近畿・四国地区】

7月22日(月) 新大阪ブリックビル (大阪市淀川区宮原1丁目6番1)

### 【北海道・東北・関東地区】

8月5日(月) ラーニングスクエア新橋 (東京都港区新橋4-21-3)

### 【中国・九州・沖縄地区】

8月20日(火) TKP ガーデンシティ鹿児島中央 (鹿児島県鹿児島市中央町26-1)

### 【参加校】

#### ①中部・近畿・四国(12校)

石川県立大聖寺実業高等学校  
兵庫県立西脇工業高等学校  
京都市立京都工学院高等学校  
香川県立観音寺総合高等学校  
茨城県立那珂湊高等学校  
兵庫県立加古川南高等学校

和歌山工業高等専門学校  
山口県立田布施農工高等学校  
兵庫県立相生産業高等学校  
愛媛県立八幡浜工業高等学校  
三重県立宇治山田商業高等学校  
京都府立海洋高等学校

#### ②北海道・東北・関東(15校)

秋田県立男鹿海洋高等学校  
栃木県立宇都宮工業高等学校  
山形県立村山産業高等学校  
神奈川県立磯子工業高等学校 全日制  
静岡県立御殿場高等学校  
静岡県立沼津商業高等学校  
静岡県立焼津水産高等学校  
奈良工業高等専門学校

旭川工業高等専門学校  
北海道釧路工業高等学校  
東京都立多摩科学技術高等学校  
神奈川県立平塚工科高等学校  
神奈川県立平塚商業高等学校  
秋田県立増田高等学校  
沼津工業高等専門学校

#### ③中国・九州・沖縄(15校)

鹿児島県立奄美高等学校  
鹿児島県立加治木工業高等学校  
鹿児島県立鹿児島工業高等学校  
福岡市立博多工業高等学校  
鹿児島県立薩南工業高等学校  
沖縄県立沖縄工業高等学校

香川県立志度高等学校  
大分県立海洋科学高等学校  
山口県立下関工科高等学校  
日本文理大学附属高等学校  
鹿児島県立川内商工高等学校  
熊本県立球磨中央高等学校

鹿児島県立種子島中央高等学校  
宮崎県立宮崎海洋高等学校

鹿屋市立鹿屋女子高等学校



地域別研究協議会（中部・近畿・四国地区）



地域別研究協議会（北海道・東北・関東地区）



地域別研究協議会（中国・九州・沖縄地区）

令和元年度「知的財産に関する創造力・実践力・活用力開発事業」  
地域別交流・研究協議会  
(中部・近畿・四国 地区)

次 第 (教諭・教授)

【日時】 令和元年 7 月 22 日 (月) 12:30~16:30

【会場】 新大阪ブリックビル 3 階会議室  
(〒532-0003 大阪市淀川区宮原 1 丁目 6 番 1)

【進行】

**進行 1\_\_全体会** 3 階会議室 E 12:30 ~ 14:05 (155 分)

1) 開会挨拶 12:30 ( 5 分)  
(独) 工業所有権情報・研修館 理事長 久保 浩三

2) 来賓御挨拶 12:35 (5 分)  
特許庁 総務部企画調査課 課長補佐 嵯峨根 多美 様

3) INPIIT から取組に当たっての確認事項の説明 12:40 (15 分)  
(独) 工業所有権情報・研修館 知財人材部 青嶋 恭一

4) 統括アドバイザーからの趣旨説明 12:55 (15 分)  
統括アドバイザー 鹿児島県立鹿児島工業高等学校 校長 満丸 浩 様

5) 4 月に行った模擬授業のふり返し 13:10 (15 分)  
アドバイザー 秋田県立男鹿海洋高等学校 教諭 大高 英俊 様

休憩時間 13:25~13:35 (休憩 10 分)

6) 模擬授業「知的財産」を意識する社会に貢献できる人材の育成 13:35 (30 分)  
アドバイザー 秋田県立男鹿海洋高等学校 教諭 大高 英俊 様

休憩時間 14:05~14:20 (休憩 15 分)  
この時間に部屋の御移動をお願いいたします。

**進行 2\_\_分科会** グループ別討議 14:20 ~ 16:20 (120 分)

① 導入・定着型校 グループ 3 階会議室 E  
アドバイザー 秋田県立男鹿海洋高等学校 教諭 大高 英俊 様

② 展開型校 グループ 3 階会議室 F  
アドバイザー 沼津工業高等専門学校 教授 大津 孝佳 様

7) アドバイザーからの趣旨説明 14:20 (5分)  
アドバイザー 秋田県立男鹿海洋高等学校 教諭 大高 英俊 様  
アドバイザー 沼津工業高等専門学校 教授 大津 孝佳 様

8) グループ内自己紹介 14:25 (10分)

9) 授業への知財学習の導入方法に関する検討 14:35 (40分)

休憩時間 15:15 ~ 15:25 (休憩 10分)

10) 参加校間の意見交換 15:25 (50分)

休憩時間 16:15 ~ 16:20 (休憩 5分)  
この時間に部屋の御移動をお願いいたします。

**進行3\_\_まとめ** 3階会議室E 16:20 ~ 16:30 (10分)

11) 統括アドバイザーによる講評 16:20 (5分)  
統括アドバイザー 鹿児島県立鹿児島工業高等学校 校長 満丸 浩 様

12) 閉会挨拶 16:25 (5分)  
(独) 工業所有権情報・研修館 知財人材部長 高橋 真之

### 1-2-5. 取組成果発表 審査委員会

本事業における取組の一環として、生徒・学生に自らの取組の成果を説明・発表する経験を積んでもらうこと、及び、本事業の取組の周知を図ることを目的に、本事業参加校によるこれまでの取組の成果を発表する「取組成果発表」を行った。本年度は、事業参加校のうち7校が取組成果発表をした。

また、行政関係者、弁理士、企業関係者、学識経験者からなる審査委員による審査会を開催した。

#### 開催概要

日時：令和元年 11月26日（火） 10:00~12:00

場所：（独）工業所有権情報・研修館 8階会議室

東京都港区虎ノ門4-3-1 城山トラストタワー

#### 【参加校】

- ・東京都立多摩科学技術高等学校、
- ・京都市立京都工学院高等学校、
- ・沖縄県立沖縄工業高等学校、
- ・宮崎県立宮崎海洋高等学校、
- ・秋田県立男鹿海洋高等学校、
- ・大分県立海洋科学高等学校、
- ・沼津工業高等専門学校

#### 【審査委員】

- ・コクヨ株式会社 経営管理本部法務部知的財産ユニット ユニット長 黒田 智子 様
- ・特許庁 総務部企画調査課 知的財産活用企画調整官 船越 亮 様
- ・キューピー株式会社 知的財産室 担当部長 古越 理 様
- ・日本弁理士会 関東会知財教育支援委員会委員 弁理士 松本 慎一郎 様

令和元年度 知的財産に関する創造力・実践力・活用力開発事業  
取組成果発表 審査委員会 議事次第

令和元年11月26日  
工業所有権情報・研修館  
知財人材部

日時：令和元年11月26日（火）10：00～12：00

会場：独立行政法人工業所有権情報・研修館 大会議室  
東京都港区虎ノ門4-3-1 城山トラストタワー8階

参加校：東京都立多摩科学技術高等学校、京都市立京都工学院高等学校、  
沖縄県立沖縄工業高等学校、宮崎県立宮崎海洋高等学校、  
秋田県立男鹿海洋高等学校、大分県立海洋科学高等学校、  
沼津工業高等専門学校

審査委員：(50音順)

○コクヨ株式会社 経営管理本部法務部知的財産ユニット ユニット長	黒田 智子 様
○特許庁 総務部企画調査課	知的財産活用企画調整官 船越 亮 様
○キューピー株式会社 知的財産室	担当部長 古越 理 様
○日本弁理士会 関東会知財教育支援委員会委員	弁理士 松本 慎一郎 様

1. 開会
2. 審査委員紹介
3. 応募作品の投影
4. 事前審査結果の報告
5. 表彰校選定
6. 閉会

## 1-2-6. 年次報告会 事前調整会議

### 【実施概要】

年次報告会 事前調整会議の実施概要を下記に記す。

### ア. 概要

年次報告会の実施内容等について、グループディスカッションの進め方について検討をした。

### イ. 実施期間／場所／参加校内訳

日時：令和元年 12月1日（日） 9：30～12：30

場所：（独）工業所有権情報・研修館 8階会議室

東京都港区虎ノ門4-3-1 城山トラストタワー

### 【参加者】

#### ◆アドバイザー（敬称略）

	氏名	所属・役職
1	満丸 浩	鹿児島県立鹿児島工業高等学校 校長
2	吉田 道広	兵庫県立西脇工業高等学校 教諭
3	知念 豊孝	沖縄県立沖縄工業高等学校 教諭
4	東 義政	石川県立大聖寺実業高等学校 教諭
5	大高 英俊	秋田県立男鹿海洋高等学校 教諭
6	大津 孝佳	独立行政法人国立高等専門学校機構沼津工業高等専門学校 教授

以上6名

#### ◆独立行政法人工業所有権情報・研修館（敬称略）

	氏名	所属・役職
1	中楨 利明	人材開発統括監
2	高橋 真之	知財人材部長
3	青嶋 恭一	知財人材部 部長代理（人材育成環境整備担当）
4	坂本 千鶴子	知財人材部 主査（人材育成環境整備担当）

以上4名

#### ◆請負事業者〔株式会社日本旅行〕（敬称略）

	氏名	所属・役職
1	安斉 敏明	国際旅行事業本部 ECP営業部 課長

以上1名

令和元年度 知的財産に関する創造力・実践力・活用力開発事業  
年次報告会 事前調整会議

次 第

1. 日 時：令和元年12月1日（日） 9：30 ～ 12：30
2. 場 所：（独）工業所有権情報・研修館 大会議室（城山トラストタワー8階）
3. 議 事
  - (1) 開会挨拶 9：30～09：35（5分）  
（独）工業所有権情報・研修館 人材開発統括監 中楨 利明
  - (2) 年次報告会の進め方について（案） 9：35～10：35（60分）  
（当日の役割分担についても確認）  
  
～ 休 憩（10分） ～ (10分)
  - (3) グループ別ディスカッションの進め方について（案） 10：45～11：35（50分）
  - (4) 令和2年度知財力開発校支援事業について 11：35～12：15（30分）
  - (5) 教材について 12：05～12：20（15分）
  - (6) その他 12：20～12：30（10分）
  - (7) 閉会

## 1-2-7. 年次報告会

### 【実施概要】

年次報告会の実施概要を下記に記す。

#### ア. 概要

令和2年1月21日に、年次報告会を次のとおり開催し、各校は1年間の取組の状況について報告した。

年次報告会においては全校種合同での全体会を行い、その後はグループに分かれての分科会となった。進め方は、アドバイザーからの説明と各校から年間の取組について状況（知的財産学習についての取組、ものづくりや商品開発・商品販売等の過程における知的財産権教育の学習内容、活動全体を総括しての成果、知的財産が身近で大切なものとして理解が深められたこと、創造する楽しさ、能力の育成が図られたこと）等が、実践事例報告書によって報告された。

#### ロ. 実施期間／場所／参加校内訳

日時：令和2年1月21日（火）

場所：ラーニングスクエア新橋（東京都港区新橋4-2-1-3 新橋東急ビル）

参加校数：42校（参加校 全校を対象とする）



理事長挨拶



年次報告会(参加校からの年次報告)



年次報告会(班別討議)



統括アドバイザー まとめ

図 1-2-7 年次報告会次第

令和元年度「知的財産に関する創造力・実践力・活用力開発事業」  
取組成果発表表彰式 及び 年次報告会

次 第

【日時】 令和2年1月21日（火） 12:00 ~ 16:30

【会場】 ラーニングスクエア新橋  
(〒105-0004 東京都港区新橋4-2-1-3 新橋東急ビル)

【取組成果発表表彰式】

1. 表彰式 (12:00~12:20)

【年次報告会】

1. 開会挨拶  
独立行政法人 工業所有権情報・研修館 理事長 久保 浩三 (12:20~12:23)

2. 来賓挨拶  
文部科学省 国立教育政策研究所 教育課程研究センター  
教育課程調査官 持田 雄一 様 (12:23~12:28)

3. 特許庁挨拶  
特許庁 総務部企画調査課 知的財産活用企画調整官 船越 亮 様  
(12:28~12:33)

4. アドバイザー紹介 (12:33~12:35)

休憩（各グループ別に分かれての分科会となります。） (12:35~12:45)

5. 参加校からの年次報告（1校10分：途中休憩含む） (12:45~14:35)

（休憩） (14:35~14:45)

6. グループ別ディスカッション (14:45~16:00)

休憩（15分）（この休憩の間に、6-Aに移動をお願いします。） (16:00~16:15)

7. 統括アドバイザーからのまとめ (16:15~16:25)

8. 閉会挨拶  
独立行政法人 工業所有権情報・研修館 人材開発統括監 中楨 利明  
(16:25~16:30)

以 上

### 第3節 参加校の指導対象・取組内容

参加校（工業高等学校22校、商業高等学校10校、農業高等学校1校、水産高等学校5校、高等専門学校4校 合計42校）の指導対象・取組内容（取組の目的・目標の要約）を記す。

表1-3-1 各校の指導対象・取組内容

#### 工業高等学校

No.	学校名	学年	学科	科目/形態	取組内容(目的・目標要約)
2展工 01	香川県立 志度 高等学校	1、2、3年	電子機械科	工業技術基礎、実習、課題研究	ものづくりの基本と応用技術習得における知財創造と地域連携の推進(知的財産学習の保護・活用を含む多様な要素を学習できる環境整備)
		1、3年	電子機械科	電子機械、機械設計	
		1、2、3年		機械研究部	
		1、2、3年		技術部	
		3年		商業科(課題研究)	
2展工 02	鹿児島県立 加治木工業 高等学校	1年	建築科	工業技術基礎／一斉授業	ものづくりを通じた知的財産学習と考え抜く力の育成
		1年	工業化学科	工業技術基礎／一斉授業	
		1年	土木科	工業技術基礎／一斉授業	
		1年	電気科	工業技術基礎／一斉授業	
		1年	機械科	工業技術基礎／一斉授業・班別実習	
		1年	電子科	工業技術基礎／一斉授業・班別実習	
		3年	全学科	課題研究／班別学習	
		ものづくり部	全学年	部活動／ものづくり部	
1展工 01	栃木県立 宇都宮工業 高等学校	1学年	全学科	科学技術と産業／講義	<ul style="list-style-type: none"> <li>・工業高校生として、ものづくり活動をとおして自らの創造力を伸ばすとともに、知識・技能により表現することが出来る。</li> <li>・地元企業や関係機関との共同研究をとおして知的財産への理解を深めるだけでなく、より積極的に活用できる態度を身に付ける。</li> <li>・専門高校である本校でのこれまでの知的財産学習に関わる取組を踏まえ、他校においても活用できる学習動機付けのための教材・マニュアルを作成することで、他校へ普及し、</li> </ul>
		1学年	全学科	科学技術と産業／校内パテントコンテスト応募	
		1学年	全学科	科学技術と産業／ペーパータワーの製作	
		2、3学年	全学科	課外活動／校内パテントコンテスト応募	
		全学年	全学科	課外活動／栃木県児童生徒発明工夫展出展	

		全学年	機械科、電子 機械科	課題研究／アイデアロボット製 作	取組を深化させる。
		全学年	機械科	課外活動／自動車部品関連開 発企業との共同研究	
		3 学年	建築デザイン 科	課題研究／県林業試験センター との共同研究	
		3 学年	機械科、電子 情報科	課題研究／アメフトロボット製作	
		3 学年	電子機械科、 生徒会	課外活動／全国産業教育フェア —大会見学	
		全学年	電子機械科	課外活動・課題研究／ドローン 関連開発企業との共同研究	
		2、3 学年	電子機械科	課外活動・課題研究／高校生ビ ジネスプラン・グランプリ応募	
		2 学年	電子情報科	課外活動／ものづくり教室	
1 展工 02	兵庫県立 西脇工業 高等学校	1 年	情報・繊維科	工業基礎／授業・講演	知的財産を活用したものづくりと、地域・企業 力を活用した知的人材の育成
		2 年	情報・繊維科	実習／授業・実習・講演	
		3 年	情報・繊維科	課題研究／授業・実習	
		全学年	機械・電気・工 業化学・総合技 術科	工業基礎／授業・講演 実習 / 授業・実習・講演 課題研究／授業・実習	
1 展工 03	山口県立 田布施農工 高等学校	1 年	全学科	総合的な探求の時間	知財教育の推進(教員の指導力強化と指導 内容の確立・生徒の知財に対する興味関心 の向上) パテントコンテスト、デザインパテントコンテス ト、その他コンテスト、大会に出品する数を増 やす 地域のものづくり、知財に対する意識が高ま り、地域産業の発展につながる
		2 年	全学科	機械実習・総合実習	
		2 年	機械制御科	情報技術基礎	
		2 年	機械制御科	機械工作	
		2 年	機械制御科	機械設計	
		3 年	全学科	課題研究	
		全学年	メカトロ研究部	部活動	
1 展工 04	鹿児島県立 鹿児島工業 高等学校	第 1 学年	I 類・II 類	工業技術基礎(授業) 情報技術基礎(授業) 総合的な探究の時間(授業)	今年度は知的財産権の理解を深め、ものづく りに生かす知財学習の実践を目標にした。具 体的には、幅広い教科の教員が知財教育に 関わられるような教材の工夫を行い、生徒の知 識習得や興味関心の向上を目指す。また、 課題研究や部活動において、生徒自らの発 想でものづくりを行い、パテントコンテストの 応募を目指す。
		第 2 学年	I 類・II 類	家庭総合(授業)	
		第 3 学年	情報技術系・電 子機械系	課題研究(授業) 部活動(メカトロ部) 部活動(パソコン部) 部活動(機械部)	

工 01	北海道 釧路工業 高等学校	1年	電子機械科	工業技術基礎／実習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・知的財産に関する基礎・基本の定着</li> <li>・デザインパテントテストへ向けた取り組みを通じた創造性の育成</li> <li>・地域中小企業と連携したモノづくりを通じた知的財産権の理解の浸透と創造力の育成</li> </ul>
		2年	電子機械科	機械工作／座学	
		3年	電子機械科	課題研究／実習	
工 02	山形県立 村山産業 高等学校	1、2、3年	機械科	特別活動／座学	<p>【指導目的】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・知的財産権の理解と活用から再生可能エネルギーに着目したものづくりをする。</li> <li>・工業科(機械科・電子情報科)を中心にもものづくりによる知的財産教育を展開し、商業科(流通ビジネス科)と連携し、知的財産を意識した新しいものづくりをする。</li> </ul> <p>【指導目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・知的財産にかかわる講演会の実施と知財を含めた生徒の発表の場の設定(創造)</li> <li>・パテントコンテストへの挑戦による知財の理解(保護)</li> <li>・知財の活用について大学との連携(活用)</li> </ul>
		1、2、3年	電子情報科	特別活動／座学	
		3年	流通ビジネス科	特別活動／座学	
		2年	電子情報科	電子回路／座学	
		2年	電子情報科	部活動／座学・実習	
		2年	流通ビジネス科	電子商取引／座学	
		3年	電子情報科	地球環境化学／座学・演習	
		3年	電子情報科	ソフトウェア技術／座学・演習	
		3年	流通ビジネス科	電子商取引／座学	
工 03	東京都立 多摩 科学技術 高等学校	1年	科学技術科	科学技術と人間	<p>進学重点型理系専門高校における知的財産意識向上の取組</p>
		2年	科学技術科	課題研究	
工 04	神奈川県立 磯子工業 高等学校	3学年	電気科	課題研究／判別	ものづくりを通し、身近な問題を解決するアイデアを引き出す学習機会を提供し、知的財産・創造活動に興味を持たせる。
工 05	神奈川県立 平塚工科 高等学校	1年	総合技術科	総合的な探究の時間／グループ	<p>様々な発想が飛び交う環境にし、知的財産を活用しながら保護について学習を深める</p>
		3年	総合技術科	課題研究／グループ	
工 06	静岡県立 御殿場 高等学校	1年	創造工学科	工業技術基礎／集団	<p>工業製品と知的財産権の関わりについて、工業人として必要となる知識を習得し、興味・関心を高める。また、商品開発等を通して、ものづくりにおける問題解決力や創造性、倫理観を育成する。</p>
		2年	創造工学科	工業技術基礎演習／集団	
		3年	情報システム科	課題研究／グループ	
		1～3年	創造工学科・情報システム科	部活動／集団	

工 07	京都工学院 高等学校	1、3年	プロジェクト 工学科	プロジェクトゼミ・部活/OJT(①)	知的財産の基本的利活用意識の定着と指導 方法の模索
		1、2、3年	全科	プロジェクトゼミ/PBL(②)	
		2年	全科	プロジェクトゼミ/講演(③)	
		3年	プロジェクト 工学科	ボランティア/フィールドワーク (④)	
		1年	全科	キャリアと公共/講演(⑥)	
		2年	全科	プロジェクトゼミ/発表(⑧)	
工 08	兵庫県立 相生産業 高等学校	3年	機械科	実習・課題研究	<p>(1)本校は専門高校であり、卒業後は就職を目指す生徒が多く、地元の中小企業への就職率が高い。ものづくりを主体とする工業教育において、技術の習得にとどまっている状況にある。新たな技術や製品の開発に向けての創造力育成や、実践的な知的財産学習により、商業科を併設する専門高校としての特性を生かしながら、今後の産業界で求められる人材育成の要求に応じていくことが本校の課題である。</p> <p>(2)ブレインストーミング法やKJ法などのアイデア創出手法を学習し、生徒自身が自らの気づきをさらに深化させ、知的創造力を身につけ、校内コンテストの実施を通して、より実践的な力の育成を図る。PDCAサイクルの実践ができる自立型人材の育成と、知的財産の知識・能力を身につけた人材を継続的に輩出できるようになることで、学校として地域の期待に応えたい。</p>
		3年	商業科	製図(2D/3DCAD)	
		1年	機械・電気・商業	特別授業	

工 09	山口県立 下関工科 高等学校	全学年	電気研究部、 化学研究部、 建築研究部、 自動車部、メカ トロ部	部活動／講義・実習・出展・発 表・討議・調査	本校は山口県立下関工業高等学校と山口県 立下関中央工業高等学校の統合による新高 校であり、2019年3月に第一期生が誕生し た。新高校としての体系的な技術者育成の工 業教育の一環として、ものづくりを通じた知的 財産教育に取り組み、一人でも多くの生徒に その成功体験をさせるための継続的な在り 方を構築することを目標とする。また、大学や 地元企業等との連携によりものづくりや研究 による知的創造サイクルの構築を目指すもの である。これらの体験により行動する力を培う とともに総合的な実力を育成し、未来を生き 抜く技術者の育成を図る工業教育の実現を 目的とする。さらに、この教育を受けた卒業 生の顕著な実績の検証を図ることにより、目 的の実現に向けて修練させるとともに推進力 を得るものである。
		3年	電気工学科、 機械工学科	課題研究／講義・実習	
		2年	全学科	LHR	
		1年	全学科	総合的な学習の時間／講話	
工 10	香川県立 観音寺総合 高等学校	1年	工業科	工業技術基礎／実習(発想訓 練)	本校は、教育目標の一つに「社会の発展に 貢献できる人間の育成」という項目を掲げ、 教育に取り組んでいる。従来から工業科で取 り組んできた「人や社会に役立つものづくり」 を基本に、近隣の特別支援学校や幼稚園な どを生徒たちが取材し、その要望に応じたも のづくりに取り組む。依頼者との交流を通じて コミュニケーション能力を高め、製作した作品 を実際に使ってもらうことで人や社会の役に 立てたことへの喜びや達成感を感じている。 実践的なものづくりから生まれる豊かな発想 力や創造力を知的財産教育と連携させ、知 財マインドに通じた生徒を一人でも多く育て ることを目的とする。
		1年	工業科	夏休み課題／発明くふう展への 出展	
		1年	総合学科	産業社会と人間／基礎学習	
		3年	機械科	課題研究／特別支援学校およ び幼稚園等での出前授業	
		3年	工業科	課題研究／製作実習	
		3年	総合学科 (商業系列)	商品開発／講演	
工 11	愛媛県立 八幡浜工業 高等学校	1年	全学科	情報技術基礎・工業探究／授業	「ものづくり」を通して創造力・発想力を育む 教育の推進
		2年	全学科	課題研究／講演・企業見学	
		3年	全学科	課題研究／実習・企業見学	

工 12	福岡市立 博多工業 高等学校	3 年生	全科	課題研究／ものづくり・アイデア 創出・パテントコンテストへの取 組	知的財産を活用したものづくりの実践および 教員研修の充実
		1・2 年生	全科	LHR／講演会	
		1 年生	全科	工業技術基礎／座学、アイデア 創出	
		2 年生	全科	実習／アイデア創出	
工 13	日本文理 大学附属 高等学校	1～3 年	情報技術科 機械科	情報技術基礎 課題研究	コンテスト応募を通じた知財教育
工 14	鹿児島県立 薩南工業 高等学校	1 年	情報技術科	工業技術基礎／講義・実習	本校は地域に必要とされ鹿児島県で 2 番目 に設立された工業高校である。地域に根差し た工業高校として、地域産業や観光等各機 関とも連携しながら、地元で活躍できる多様 な専門的職業人の育成を目指している。その 実践の中で、必要な知的財産権の学習を行 い、問題解決能力や創造力を育てるだけでな く、権利の保護や活用についても理解し、今 後社会人として必要な基礎的な力を幅広く身 につけることを目標とし取り組んだ。
		3 年	情報技術科	課題研究／実習	
		全学年	全学科(建築 科・機械科・情 報技術科・生活 科学科)	外部講師による講演	
		1 年	生活科学科	外部講師による特別授業	
		2 年	生活科学科	外部講師による特別授業	
		全学年	全学科	アイデア募集／実習	
工 15	鹿児島県 立川内商工 高等学校	全学年	インテリア科	工業技術基礎、実習、課題研究 デザイン技術、製図	知的創造物具現化のための創造力と技術力 の向上
工 16	沖縄県立 沖縄工業 高等学校	2 年	工業化学科	化学情報 A／選択科目(座学)	問題解決に向けた発想力とアイデア等の表 現力の育成
		3 年	工業化学科	化学情報 B／選択科目(座学)	
		3 年	工業化学科	化学情報 C／選択科目(座学)	
		3 年	工業化学科	課題研究／実習(グループ)	

商業高等学校

No.	学校名	学年	学科	科目/形態	取組内容(目的・目標要約)
3 展商 01	鹿児島県立 奄美 高等学校	1、2、3 年	全校生徒	学校行事	<p>・商業科、情報処理科1年次で、知的財産に関する基礎的知識と、諸発想法等を指導し、学習の動機付けを行う。</p> <p>・商業科、情報処理科2年次で、知的財産のつくり方を指導し、自主的に実践するマインドを育む。</p> <p>・商業科、情報処理科3年次で、創造した知財を活用して、社会をよりよくしていこうとするマインドを育む。</p> <p>・商業科、情報処理科、家政科、機械電気科、衛生看護科の生徒に対して、プロフェッショナルや地域協働による高校生レストランの企画・運営・実施の体験学習プロセスで、知的財産の創造力・実践力・活用力を育成する。</p> <p>・工業技術研究部の生徒に対して、製品製作の指導を通じて、知的財産のつくり方を体得し、創作物を活用して社会をよりよくしていこうとするマインドを育む。</p>
		1 年	商業科	情報処理/授業	
		1 年	情報処理科	情報処理/授業	
		2 年	商業科	商品開発/授業	
		2 年	情報処理科	電子商取引/授業	
		3 年	商業科	総合実践、課題研究/授業	
		3 年	情報処理科	総合実践、課題研究/授業	
		3 年	家政科	調理/授業	
		3 年	機械電気科	課題研究/授業	
		3 年	衛生看護科	看護基礎/授業	
		1、2、3 年		商業クラブ部/部活動	
1、2、3 年		工業技術研究部/部活動			
2 展商 01	石川県立 大聖寺実業 高等学校	1 年	情報ビジネス科	特別活動、ビジネス基礎	<p>地元企業と協力し地域活性化に向けた取り組みを行うなかで、開発した商品の保護・活用を目指す。</p> <p>知的財産に関する基本的な知識を定着させ、知的財産に関する理解を深めていく。</p>
		2 年	情報ビジネス科	特別活動、マーケティング	
		3 年	情報ビジネス科	特別活動、経済活動と法、課題研究	
商 01	茨城県立 那珂湊 高等学校	1 年	商業に関する学科	ビジネス基礎	<p>1 学年 商業に関する学科 科目「ビジネス基礎」</p> <p>・知的財産の基礎知識、知的財産を調べる。</p> <p>・J-PlatPat を用いて商標の類似案件を検索し、学習を行う。 実施率 100%</p> <p>2 学年 起業ビジネス科 科目「マーケティング」</p> <p>・知的財産を実践する、地域のイベントDonightマーケットに参加し、販売実習を通した「みなとちゃん」のブランド化を図る、イベント参加状況 100%</p> <p>3 学年 起業ビジネス科 科目「広告と販売促進」</p>
		2 年	起業ビジネス科	マーケティング	
		3 年	起業ビジネス科	広告と販売促進	
		3 年	会計ビジネス科	コンピュータ会計	
		2 年	情報ビジネス科	マーケティング/選択	
		3 年	情報ビジネス科	ビジネスデザイン	

					<p>・知的財産の共同利用による販路拡大の実践。 3 学年 会計ビジネス科 科目「コンピュータ会計」</p> <p>・キャラクター「みなとちゃん」を使用した副教材づくりを通して著作権を知る。2 月末に完成させる。</p> <p>2 学年 情報ビジネス科 科目「マーケティング」</p> <p>・知的財産の基礎知識、知的財産を調べる。 ・J-PlatPat を用いて商標等の類似案件を検索し、学習を行う。 実施率 100%</p> <p>3 学年 情報ビジネス科 科目「ビジネスデザイン」</p> <p>・校内パッケージデザインコンテストを実施。 代表 1 作品以上</p>
商 02	神奈川県立 平塚商業 高等学校	全学年	総合ビジネス科	課題研究	地域交流活動をとおして知的財産権の大切さを感じ活用方法を学ぶ
商 03	静岡県立 沼津商業 高等学校	2 年 ----- 3 年 ----- 3 年	総合ビジネス科・ 経営コース ----- 総合ビジネス科・ 経営コース ----- 情報ビジネス科・ IT コース、マルチ メディアコース	マーケティング/座学・実習 ----- 課題研究/座学・実習 ----- 電子商取引/座学・実習	地元企業および商工団体と連携し、商品開発、電子商取引により知的財産に関する学習と創造性を養う。
商 04	三重県立 宇治山田 商業 高等学校	3 年	商業科	商業科	パテントコンテストへの応募を通じた創造力・実践力・活用力の育成
商 05	兵庫県立 加古川南 高等学校	2 年	総合学科	商業科目選択者	地域と連携したアントレプレナー教育の実践と知的財産権の理解
商 06	熊本県立 球磨中央 高等学校	全学年	全学科	総合的な探究の時間	知的財産制度の理解を踏まえた地域資源活用を目指す総合的な探究の時間の取り組み

商 07	鹿児島県立 種子島中央 高等学校	1～3 年	情報処理科	課題研究／座学, 実習	〔地域資源を活かした知財学習・アントレプレナーシップ〕 ～地域協働の活動を通して、地域産業を担う人材の育成～ ①地域企業と連携した新商品開発と地域食材の販売促進活動(商標権の学習) ②CADを活用した知財マインドの育成(意匠権の学習)
		3年	情報処理科	電子商取引／座学, 実習	
		3年	普通科	経済活動と法／座学	
		2年	情報処理科	広告と販売促進／座学, 実習	
商 08	鹿屋市立 鹿屋女子 高等学校	全学年	情報ビジネス科	LHR	①経済発展には、知的財産が関連していることを学習する。 ②地域と連携した実践的・体験的な取り組みを通して、知的財産を理解して創造力・実践力を育成する。 ③地元企業の知的財産を学習し、地域とともに成長する人材の育成を図る。 ④デザインパテントコンテストに応募するためにアイデアの創出と学校キャラクターを活用し商標権について学習する。 ⑤大隅地区の地域資源について学習し、体験バスツアーを企画する。 ⑥科目「情報処理」で、地元企業の商標登録状況を INPIT の検索サイトで調査し、知的財産権についての理解を深める。
		3年	情報ビジネス科	課題研究／選択(商品開発班)	
		3年	情報ビジネス科	課題研究／選択(デザイン班)	
		3年	情報ビジネス科	課題研究／選択(アプリ開発班)	
		3年	情報ビジネス科	課題研究／選択(大隅探検隊班)	
		2年	情報ビジネス科	LHR	
		1年	情報ビジネス科	情報処理	

### 農業高等学校

No.	学校名	学年	学科	科目/形態	取組内容(目的・目標要約)
農 01	秋田県立 増田 高等学校	1～3年	農業科学科	課題研究 農業経営 作物 農業と環境	「課題研究をはじめ、専門教科におけるものづくりを主体とした研究活動と知的財産学習の融合」

## 水産高等学校

No.	学校名	学年	学科	科目/形態	取組内容(目的・目標要約)
3 展水 01	秋田県立 男鹿海洋 高等学校	3 年	海洋・食品科学	課題研究・総合実習／製作・研究	<p>①校内指導体制を確立する。【観察力の強化・J-PlatPat の活用強化・知財の活用能力の育成・指導案や教材の開発】</p> <p>②地域企業と連携し、知財学習の機会を設置【ものづくりを通して、コンテストへ応募する。地域企業と連携した新商品の開発をする】</p> <p>③秋田県内の専門高校と異種間連携と知財学習の普及【他校と商品開発で連携する。他校の教員へ知財学習の情報を提供する】</p>
		2 年	海洋・食品科学	総合実習／講義・演習	
		2 年	食品科学	総合実習／講義・演習	
		1 年	普通	社会と情報／講義	
		3、2 年	普通	ビジネス基礎／講義	
		2 年	普通	課題研究(家庭)／講義・演習	
		1 年	海洋・食品科学	水産海洋基礎／演習・講義	
		1～3 年	水産・家庭クラブ	部活動／製作・研究	
		全学年	全学科	課題研究・総合実習等／成果発表会	
2 展水 01	大分県立 海洋科学 高等学校	3 年	海洋科	課題研究／実習 総合実習／実習 水産流通／座学	記載なし
		2 年	海洋科	課題研究／実習 総合実習／実習 水産流通／座学	
		1 年	海洋科	海洋情報技術／座学 水産海洋基礎／実習	
水 01	静岡県立 焼津水産 高等学校	1～3 年	流通情報科 (一部全学科)	水産海洋基礎、総合実習、水産 海洋科学	知的財産への関心を高め、創造力と実践力を養うことで活用力を養い、それらを生かして地域の水産業に寄与する人材の育成を図る
水 02	京都府立 海洋 高等学校	3 年	全学科・コース	課題研究／座学(実習含む)	<p>目的:これまでの「知的財産に関する学習」を専門教科内の内容として全校に導入し、知的財産権の検討が研究や開発活動等に伴う一連の流れとして必要な事項であるという意識を養う。</p> <p>目標:知的財産に関する学習活動を、本校教育(研究・開発)の中で計画的に実践し定着させる。</p>
		2 年	航海船舶コース	総合実習／実習等	
水 03	宮崎県立 宮崎海洋 高等学校	1 学年	海洋科学科	総合的な探究の時間／講義、演習	知的財産制度の基礎学習に取り組むことで、意欲的に学ぶ力を身に付けさせ、学年が進むごとに自ら考え、意見を出し合い、活発な学習活動ができるようにする。
		全学年	海洋科学科	学校行事／講演	
		2 学年	海洋科学科	部活動	

## 高等専門学校

No.	学校名	学年	学科	科目/形態	取組内容(目的・目標要約)
3展専 01	旭川 工業高等 専門学校	1年	全学科	情報基礎・現代社会/座学	パテントデバイド解消を目指した地域連携推進のための実践的知財学習
		2年	全学科	地理/座学	
		(5年)	全学科	知的財産権論/座学・演習	
		クラブ 活動	有志学生		
1展専 01	和歌山 工業高等 専門学校	1,3年	知能機械工 学科・電気情報工 学科・生物応用 化学科・環境都 市工学科	知的財産権の HR:1年・3年	これまで本事業導入型で培った本校の知的財産教育実績を基盤として、学生の知的財産に関する理解度合の情報などを取り入れ、初心者も楽しく確実に学べる知的財産教材の和歌山高専モデルを作製する。また、その成果としてパテントコンテスト及びデザインパテントコンテスト(以下各コンテスト)で入選できる作品を作製する。
		5年		授業:5年	
		1年から 3年		総合美術同好会 ロボコン部 部活動	
専 01	沼津 工業高等 専門学校	1年	全学科	①情報処理基礎/座学	地域産業の発展において、「知財」が大きなウエイトを占めており、これに対応するために「知財創造人材」の育成が必須となる。これを下支えするため、平成29年度より、全1年生の工学基礎Ⅱ知財セミナー、全2年生対象の知財基礎セミナー、全3年生対象の知財応用セミナーを実施している。これまで培ってきた「地域の特色を活かした」知財教育が、全学、全教員、全学生の取組になるよう体制を見直すとともに、その取組みの効果を定量的に測り、知財教育の定着を目指すのが本事業の指導目的・目標である。
		1年	全学科	②工学基礎Ⅰ/座学	
		1年	全学科	③工学基礎Ⅱ/実験・実習	
		2年	全学科	④知財基礎セミナー/座学	
		3年	全学科	⑩知財応用セミナー/座学	
		1~3年	全学科	⑤⑪課題研究/体験型知財学習	
		1~3年	全学科	⑬活用ブラッシュアップセミナー/体験型知財学習	
		1~3年	全学科	⑥⑨⑫校内パテントコンテスト/体験型知財学習	
1~3年	全学科	⑦⑧⑭知的財産教育アンケート			
専 02	奈良 工業高等 専門学校	1年生	機械・電気・電子制御・情報・物質化学工学科	特別活動/講演会	本校の電子制御工学科第1~第3学年において実施しているロボット教材(LEGO)を用いた課題解決型学習(PBL)教育に知的財産学習を導入することにより、PBL教育と知的財産学習を有機的に連携させた教育を実施することを目的としている。これにより、学生の知的財産に対する興味を喚起し、知的財産権の重要性の理解と効果的な学習による知識の定着を目標とする。
		1~3学年	電子制御工学科	電子制御工学実験Ⅰ/実験 電子制御工学実験Ⅱ/実験 電子制御工学実験Ⅲ/実験	